

榎大丸鋸螺製作所（大阪市東成区）は、この度平成 25 年より「新機能締結部品の開発と販売」をテーマとして取り組みを続けていた経営革新計画を達成した。同社の細山田寛社長と細山田秀明会長に取り組みについて話を聞いた。

同社は平成 25 年 7 月に「新機能締結部品の開発と販売」をテーマとして新製品の開発を主とした計画を提出。大阪府の承認を経て同年 8 月から取り組みを続けていた。大阪府では中小企業が策定した革新性のある事業計画を審査しており、実現可能性のある計画を「経営革新計画」として承認し、低利融資制度等による各種支援を行っている。

大阪府は昨年より達成企業への表彰を行っており、これまでに同社を含む 21 社が「経営革新計画達成企業」として認定を受けている。なお、大阪府は全国で初めて企業支援策として目標達成企業のみが使用できる「計画承認企業シンボルマーク」を定めており、「優良経営革新企業の証」として認知度向上及びマークの利用促進に努めている。マークにはえびす様に扮した大阪府の公式マスコットキャラクター「もずやん」が描かれている。



同社は計画を通じて「シールボルト」「ソフトグリップボルト／ナット」の 2 製品を開発。加えて展示会への出展等による営業活動を行った。5 カ年計画の申請企業に対しては計画目標として計画の最終年度において定められた付加価値額（計画提出年度に対して 15% 以上増）及び経常利益（同 5% 増）の達成が求められていたが、同社はいずれも約 2 割増となるなど目標を大きく超える数値を達成した。なお、このうち水・空気・油等の漏れを防ぐねじ製品である「シールボルト」に関してはユーザーからの好評を受け、現在は「シールシリーズ」として計 7 アイテムがラインアップされている。

細山田社長は今回の取り組みについて「新製品の開発が当社の特色となっている」とした上で「近年では社員主体による開発も行っている。今後も新製品を通じた営業活動を進めていきたい」旨コメントした。また同社の細山田秀明会長は「新製品が直ちに市場に受け入れられるとは限らない。10 年、20 年といった長い単位の案件となる」と指摘した上で「今後は一人の個性に頼るのではなく、会社全体で優れたアイデアを出していくことが重要となるのでは」と話した。